

No. 26 2024年5月26日

三位一体主日礼拝  
説教『新しく生まれて神の国を見よう』

山根眞三師  
司会 根角静香さん  
奏楽 白石百合子さん  
招詞 ローマ人への手紙11章32～36節  
主の祈 (564)  
讃詠 5 4 6  
交読詩編 詩68編1～19節  
祈禱  
讃美歌 2 4 0  
使徒信條 (566)  
聖書 ヨハネ福音書3章1～15節  
説教 (口語訳138頁、新共同訳167頁)

『新しく生まれて神の国を見よう』

祈禱  
讃美歌 21 - 3 3 9  
献金  
感謝報告  
頌祝 5 4 0  
後奏

次週の礼拝 (三位一体後第一主日礼拝)  
説教『神はラザロを憐れんだのです』  
ルカによる福音書16章19節～31節  
招詞 I ヨハネ手紙4:13～18、交読詩篇138編  
讃美歌 546、21-37、488、541

礼拝当番  
今週 26日 司会 根角さん 献金 長本さん  
次週 2日 司会 市川さん 献金 神笠さん  
会堂清掃奉仕 5月31日(金)  
午後4時～ めぐみ幼稚園保育者

本日の集会

★教会学校 午前9時45分  
★コーヒータイトム 礼拝後～  
密にならずそれぞれの思いを語り合しましょう。  
✳️学校法人広島西部教会学園理事会評議員会  
午後1時30分～3時  
1. '23年度決算報告、2.'24年度予算案審議  
3. 私学法改正による寄付行為の変更について  
4. 幼稚園の将来についての協議

今週の集会/スケジュール

✳️めぐみ幼稚園フリーデー 5月29日(水)この日子ども達は一日クラスの関係なしに自由な活動を行います。覚えてお祈り下さい。  
✳️第40回全国教誨師大会 5月29日(水)13:30～30日(木)11:30 会場：札幌パークホテル  
講演「教誨師の役割」堀川恵子さん(ファンフィクション作家)  
講演「心に響く言葉」金田一秀穂さん(杏林大学教授)  
✳️めぐみ幼稚園内科検診 5月30日(木)13:00～  
✳️めぐみ幼稚園誕生礼拝 5月31日(金)10:00～

次週以降のスケジュール等

★6月定例教会役員会 6月2日(日)礼拝後  
教務・教勢報告、会計報告、教区総会報告  
教会役員の仕事と健康を覚えてお祈り下さい。  
✳️めぐみ幼稚園懇談会 6月3日(月)13:00～  
✳️めぐみ幼稚園花の日礼拝 6月7日(金)10:00～  
✳️広障伝・考える集い委員会 6月9日(日)14:00～17:30  
考える集い及び全キ障協について話し合います。  
✳️広島キリスト教信徒会理事会 6月11日(火)11:00～12:30 会場：広島復活教会  
✳️広島西分区牧師会 6月11日(火)16:00～17:30  
会場：広島流川教会

★会堂再建記念日礼拝 6月16日(日)10:30～

先週の集会	男	女	計
教会学校	0	0	0
主日礼拝	5	13	18

◇今週の説教要旨(三位一体主日礼拝)  
『新しく生まれて神の国を見よう』ヨハネ福音書3:1～15  
30数年前、肺がんの手術をされ市民病院に入院されていた乗兼さんが悪夢に悩み、サタンよ下がれと語られたことを思い出した。由美子さんが新しい抗がん剤治療に入り同じように悪夢を見、同じようにサタンよ下がれと語って目が覚めたようだ。病との闘いの重さと、それを支えてくれる信仰を思います。  
ヨハネ福音書が基本的に敵対とまでは言わないまでも抵抗勢力であるパリサイ人であり、ユダヤ社会での重要な構成員、70人議会の議員である人の名前が記される。ある意味でユダヤ社会の中で陰ながらヨハネの教会を支えていた人だと思える。ニコデモ彼は人目を避けて夜イエスを訪問した。心からイエスの教えを求めたのだろう。イエスはそのようなニコデモを愛したのだ。だからユダヤ社会にある清めの水に象徴される浄めではなく、新しく生まれることを求めたのだろう。ニコデモにはイエスのそのような求めを理解しながら、彼は人はどうして再び母の胎に戻れるだろうかと、完全に逃げの反論をしてしまった。イエスのニコデモへの答えは、ヨハネの教会の信者達への、そしてイエスのことを信じて従っている私たちへの答えそのものだった。現実にイエスとの具体的、物理的な出会い、交わりがなくても人は洗礼を受けることによって新しく生まれる。その洗礼の出来事は水と聖霊によって可能とされるのだ。このイエスの言葉はヨハネの教会がしっかりと認識し、信じているところの実存そのものだったのだ。ニコデモへのイエスの言葉は、社会を導く位置にあるものでありながら、どうしてそんなに頑ななのか。大きなイエスのそしてヨハネの教会のニコデモへの愛として見る事が出来る。イエスが教えられたことを学び、信じる時、人々はその歩みの中で、歩みそのものを神の国として実感することが出来るのだ。決して浮世離れではなく具体的な歩み。